

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 10 月 12 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471100986		
法人名	(株) アーバン・ケア		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	広島県尾道市高須町東新涯4834-6 (電話) 0848 (55) 1355		
自己評価作成日	令和5年8月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471100986-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年10月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

東尾道公園に面し、いつも子供の明るい声が聞こえる環境で、気候の良い時期は、公園に散歩に出かけ、地域の人と触れ合いを持つことができる。又、ホームの五分圏内に、色々なお店が立ち並び、買物しやすい環境でもある。入居者の方々には、季節感を感じて頂く事を大切にしており、季節・季節に応じた壁面飾りを入居者と共に関心しながら作成している。施設行事も思考を凝らし、毎月開催している。中でも「入居者の思いを叶える月間」は、行きたいお店、食べたいもの、したい事等、お一人お一人の願いの聞き取りをし、話し合いを重ねスタッフ引率のもと、実現に向けて動き、大変喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりを大切にする取り組みとして、『入居者の思いを叶える月間』は、個々の想いや要望を受け止め、行きたいお店、食べたいもの、したい事など希望を叶える取り組みをしている。毎食の食事は季節の食材を取り入れ、3食の手作りの食事提供をし、利用者と職員が同じ食事を食べるように工夫をしている。1週間利用が出来る体験利用を取り入れる事により、利用者・家族が利用前に納得した契約が出来る環境づくりをしている。職員が2ユニット、全利用者を把握出来るようにするために、2~3ヶ月毎に職員のユニット間の異動体制により、その効果から職員が全利用者を把握し、BCP（事業継続計画）、緊急時の応援・協力体制づくりなど出来るようにしている。コロナ禍での運営推進会議は感染状況に応じてリモート会議又は対面会議と柔軟に対応していたが、先月、令和5年9月に家族会を兼ねた対面での会議を再開している。

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたっている。毎月の職員会議で、目標や課題を話し合うとともに、1年間の個人目標も掲げている。	本社の理念を活かし、年始に職員個々の個人目標を毎年設定し、職員全体で話し合い、理念に沿った今年度の目標『丁寧な声掛けと優しい対応』を掲げて取り組んでいる。毎月の職員会議で確認しながら日々実践することにより全員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会にも加入し、清掃活動に参加したり、行事にも呼んでもらっている。(とんど) コロナにより数年中止 日々の散歩は東尾道公園へ行っており、地域の方々や子供達との交流の場となっている。	町内会に加入し、町内清掃への参加、近隣公園での関り、子ども110番の家として、近隣の子どもの見守りに協力をしている。コロナ禍前は、『夏祭り、とんど祭り、保育所の園児との交流、職員のアイデアからフリーマーケットの出店』など近隣住民との顔なじみの関係性を築く努力をしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	民生委員・児童委員の会合に参加し、施設の紹介をしたり、家族会・運営推進会議などでも発信していたが、集まりの場は現在、自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月に開催していた運営推進会議では、サービスの向上に向けての話し合いを、行っていたが、コロナ禍の為、外部からの参加は中止している。その分、家族と電話の機会が増え、意見を求めサービス向上に活かしている。	コロナ禍の感染状況を踏まえて、リモート会議又は対面会議と柔軟に対応をしている。利用者の状況、取組み状況、身体拘束防止・虐待防止など報告している。会社全体、3事業所の取組み状況を参考にし、サービス向上に活かしている。先月、令和5年9月は家族会を兼ねて会議を再開している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	高齢者福祉課には、頻りに電話や直接出向くなどして、色々と相談し指導いただいている。	市との連携は、副所長が主にやり取りをし、そこでの内容については、会社全体、3事業所に周知している。事故報告、認定調査、感染症対策など相談や質問がある時は、市へ相談している。市から相談を受ける事が多く、日頃の取組み状況を報告しながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修や職員会議などで周知徹底している。</p>	<p>職員は利用者寄り添って日々支援することで身体拘束をしないケアを目指して取り組んでいる。年2回の研修、2ヶ月毎の委員会でマナー研修、不適切研修、言葉の拘束にならないようにスピーチロックを含めた研修をしている。上記について、運営推進会議で報告している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止について職員会議での話し合いを行ったり、研修を重ね徹底している。日々の生活で見つけた小さなアザもチェックリストに記入するようにしている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については毎月のカンファレンスで話し合っている。成年後見制度については、講師を呼び勉強会を行った。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようにしている。十分説明を行った上で、納得の上承諾書も頂いている。</p>	/	/
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に御意見箱を設け無記名で意見が書けるようにしている。又、面会時にも家族の思いを聞けるよう努力している。職員に言いにくい場合は、家族会の代表を通して意見を伝えられる。利用者には、1対1になる入浴の時や散歩の時に、要望を聞くようにしている。</p>	<p>面会時などに、家族の生の声を聴くように努力している。意見箱を設置しているが、意見・要望など直接職員に言い難い場合は、家族会の代表を通して意見を伝えられるようにしている。県外の家族から外泊がしたい要望を受け、ホームの外泊ルールに基づいて実現したケースがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は、必要に応じて、一人ずつ面談を実施し、個々の意見を聞き、より良い施設の環境作りに取り組んでいる。又、月1回のカンファレンスでも、職員の意見を述べる機会を設けている。	年1回、必要時の面談を実施し、代表者は職員一人ひとりの力量を把握している。法人として『永年勤続表彰、資格取得の斡旋、個々の職員の状況に応じた勤務時間』など柔軟に対応している。ホーム内外の環境整備が不十分という意見を受け、専属の職員配置により、職場環境の充実に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議や日頃の会話等から、職員の考えや思いを把握し、安心して勤務できるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部から理学療法士を招き介護技術とその知識を得る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	アーバンケア内の施設との交流により、職員間の交流や施設内のサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき話している。		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居決定までには来所又は電話にり、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱えたまま契約にならぬようにしている。また、体験入居が1週間出来るため、双方が納得して1週間後契約となる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームを家族が希望しても、面談を試みて、入所より在宅が適当であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共にし、日々の話の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者ご家族とスタッフは家族的雰囲気でも何でも話し合える関係作りが出来ている。又必要な方は携帯電話を利用して頂き御家族との連携を保っている。遠方の御家族には月報や電話で状況を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親しい方との面接や電話なども自由に行えるように支援している。囲碁のサークルに参加したりサークル仲間の方がほぼ毎日来て下さる方もいる。(コロナウイルスが落ち着くまでは自粛しております。)信仰していた神社にお連れしたり通院支援や、買い物、手紙など馴染みの関係が途切れないよう努めている。	携帯電話を所持される方もいる。年始には年賀状の送付や電話の取り次ぎ、手紙のやり取りをしている。家族と相談しながら、家族の協力を得て、お墓参りや法事など外出している。囲碁のサークル仲間、友人や知人などの訪問もみられ、以前からの関係継続に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立しないようリビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了された方の家族よりボランティアの申し出がある等、関わりは継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の暮らしの情報を基本に、家族からも情報をいただき、日々の暮らしの支援をする。また、生活を共にする中で、行きたい所、食べたいもの、したい事等知り得た情報をスタッフで共有し、実現にむけて取り組んでいる。	日々の関わりの中かで、要望を把握できるように努めている。言葉や行動など些細なことを『個別記録』に記載し、確認している。本人が行きたい所、食べたいもの、したい事などが実現できるように職員間で情報共有しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活歴についても聞き、対応に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態に合わせ入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ有する力を全員が発揮できていない現状だが、残存機能を生かした支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しい方もおられ、日々の対応で知り得た情報より、思いを酌んでの介護計画となっている方もおられる。</p>	<p>本人をよく理解している担当職員が1～2人の利用者に対して、アセスメントをしている。アセスメントの結果は、サービス担当者会議で適切なケアプランに活かし、一定の期間で見直しを図っている。日々の関わりから、知り得た情報を職員間で共有し、ケアプランに活かしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには出来る限り協力体制を取っている。(囲碁教室に通うなど)</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員・ボランティア、警察・消防には認知症対応ということで、緊急事態の為にリスト作りをして頂き協力体制を作っていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科・精神科・皮膚科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も適切な医療体制で臨んでいる。入居前のかかりつけ医は、入居してもそのまま継続していただいている。</p>	<p>今迄の病歴などを踏まえ、利用開始時に家族と相談しながら、かかりつけ医を決めている。ホームとして、2週間毎の協力医訪問診療、24時間の連絡体制を整えている。ホームに非常勤看護師を配置し、相談など、適切な医療が受けられる体制で、緊急時の連絡体制も整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化にも状況により訪問相談等、24時間体制で連絡がとれる関係である。	/	/
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院3ヶ月までは退居の必要はなく安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。	/	/
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の希望で看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、家族もまめに面会に来られている。重症化した場合、終末期については主治医と施設・家族で話し合いを持ち三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。	希望があれば、看取りをする方針である。『看取りに関する指針』に準じて対応している。医療施設同様の対応は難しいことを家族へ説明し、重度化や終末期には、主治医と相談し、その都度家族と話し合いを重ねて方針を決めている。家族の希望があればホームでの寝泊まりを可能としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故に備えて緊急マニュアルをスタッフルームに掲示、それに従い落ち着いて対応するように伝達している。	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。	日頃の訓練状況の実施状況から、消防署職員のアドバイスを受けて、随時、夜間想定訓練、津波想定避難訓練（1階から2階への垂直避難）を実施している。消防署が近く、初動活動ができる環境である。会社全体での応援体制、備蓄として約3日分を1階と2階に分散している。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮する事をカンファレンスや施設内研修で、何度も繰り返しスタッフに働きかけている。	接遇マナー研修で全職員を対象にアンケートをしている。アンケートの内容は、『自分が何をされて嫌なのか、どのような声掛けをすれば嬉しいか』など実施し、職員個々が自己点検、不適切なケアにならないようにしている。今年度の目標『丁寧な声掛けと優しい対応』を掲げて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど考慮し、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方は、こちらで意をくみつつ、生活の中で、今日着たい洋服や、したいレクリエーション活動など、自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についてもまず声かけにより入居者の意思を確認し個人のペース生活できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思決定ができる方は化粧品等一緒に買い物などしているが、自己決定できない方は利用者の好みなど職員が把握するようにし支援している。又理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食手づくりで、野菜の皮むき、食器拭きなどは手分けして職員と共に行い定着している。又食事中も会話が弾むよう職員が中に入ったり仲の良い利用者同士を同じ席にするようにしている。誕生日の方に食べたいものをリクエストしてもらったり、気候の良い日は、庭でランチを食べる。利用者の好き嫌いに合わせたメニューの提供をする。	下準備、片づけなど利用者と職員が協力し3食手作りで提供している。ホーム菜園で育てた、トマト、キュウリ、茄子、オクラ、南瓜などが食材に並ぶこともある。誕生日は、本人の希望を聴いてメニューに反映し、時には、お弁当など注文し、食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの嗜好、食事量を把握し、配膳に工夫している。歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助する。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりのパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。理学療法士を招き、排泄の自立に必要な介護技術を習得することで一人ひとりの能力に応じた介助を行い、より良い支援を行っている。</p>	<p>トイレは、1ユニット定員9名に3カ所あり、その内1カ所は男性用トイレを設置している。ポータブルトイレに座る事が難しいなど、ケースによっては、理学療法士からのアドバイスを受ける体制が整っている。なるべく布パンツやリハビリパンツで過ごせるように個別のケース検討をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者個々のタイミングに合わせ、入浴を支援している。浴槽に入りたい方、シャワーが良い方など希望に合わせる。浴槽に入るのが難しい方には、リフトが設置されており、又椅子に座ると全身にシャワーがかかる「ザ・シャワー」も設置されている。</p>	<p>週2回の入浴を基本とし、希望があれば毎日の入浴も可能としている。脱衣場は暑い時期は扇風機、寒い時期はストーブを活用している。福祉機器『リフト、座ったまま全身にシャワーがかかる座シャワー、シャワーチェア』を設置している。入浴後は水分補給としてスポーツドリンクを飲用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	睡眠パターンについては、職員の方でほぼ把握出来ている。昼夜逆転の傾向の人やその他夜間の様子については申し送り等で職員間で情報を共有、カンファレンスで話し合い、日中のあり方を検討し配慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋に目を通し、把握しておく。服薬時は日にちと名前を職員2名で確認をし、誤薬の無いように徹底している。又ノートを作成し主治医に体調の変化の報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーション、散歩等、声を出したり笑ったり身体を動かしたりという活動を日課の中に取り入れるよう心がけている。又、洗濯物の手伝い、食後の片付け等個々の役割を決めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候の良い日は、向かいの公園へ数人に分かれて出かけている。「願いを叶える月間」を設け、全員に、どこのお店で何を食べたいか、どこに行きたいか、何をしたいか等、聞き取りをし、スタッフが付添い、外出支援を行っている。	ホーム周辺が散歩するには適した立地であり、気候が良ければ散歩している。『願いを叶える月間』を設け、個人の希望を叶える外出支援、しまなみ海道、お墓参り、家に帰って仏壇の前で手を合わせたいなど個別支援をしている。外出自粛の時期は、レクリエーションなどの充実に力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持に関しては、トラブルの元になるので、入所時からお断りしている。しかし買い物を楽しみを味わっていただく為に施設内でお店を開き、お金を使う事の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使って頂いている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングはいつも季節感を感じられるよう配慮している。又行事やイベントの写真を貼ったりビデオを見たりして思い出を会話に繋げている。	リビングから出入りできるウッドデッキがあり、クリスマスの時期はイルミネーションを飾っている。感染予防に効果がある大型空気清浄機を設置している。日中はレクリエーション活動により、リビングで過ごす事が多いため、椅子は本人の身体状況に応じてクッションなどで調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室、同じ造りになっているが使い慣れた物を持ち込まれたり(ドレッサー・仏壇・囲碁セット)テレビを置いたり家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋となっている。	居室入り口は、本人の顔写真を飾っている。エアコン、ベッド、洋服タンスは用意されている。使い慣れた寝具や家具など生活必需品を持ち込んでいる。本人の身体状況に応じてレイアウトを設置し、本人が居心地よく生活していただけるように、本人や家族と相談しながら工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	能力に応じてバーを利用したり、シルバーカーや車椅子で移動されている。歩行や立ち上がりの不安定な方は居室にもバーや立ち上がりの為のポールも取り付けている。不安やパニックになる前に、声かけ、見守りを心がける。日常行う行動については判りやすい掲示、案内などに配慮する。		

V アウトカム項目(ところ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたっている。毎月の職員会議で、目標や課題を話し合うとともに、1年間の個人目標も掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会にも加入し、清掃活動に参加したり、行事にも呼んでもらっている。(とんど) コロナにより数年中止 日々の散歩は東尾道公園へ行っており、地域の方々や子供達との交流の場となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	民生委員・児童委員の会合に参加し、施設の紹介をしたり、家族会・運営推進会議などでも発信していたが、集まりの場は現在、自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月に開催していた運営推進会議では、サービスの向上に向けての話し合いを、行っていたが、コロナ渦の為、外部からの参加は中止している。その分、家族と電話の機会が増え、意見を求めサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	高齢者福祉課には、頻りに電話や直接出向くなどして、色々と相談し指導いただいている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修や職員会議などで周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止について職員会議での話し合いを行ったり、研修を重ね徹底している。日々の生活で見つけた小さなアザもチェックリストに記入するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については毎月のカンファレンスで話し合っている。成年後見制度については、講師を呼び勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようにしている。十分説明を行った上で、納得の上承諾書も頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に御意見箱を設け無記名で意見が書けるようにしている。又、面会時にも家族の思いを聞けるよう努力している。職員に言いにくい場合は、家族会の代表を通して意見を伝えられる。利用者には、1対1になる入浴の時や散歩の時に、要望を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は、必要に応じて、一人ずつ面談を実施し、個々の意見を聞き、より良い施設の環境作りに取り組んでいる。又、月1回のカンファレンスでも、職員の意見を述べる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議や日頃の会話等から、職員の考えや思いを把握し、安心して勤務できるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部から理学療法士を招き介護技術とその知識を得る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	アーバンケア内の施設との交流により、職員間の交流や施設内のサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき話している。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居決定までには来所又は電話にり、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱えたまま契約にならぬようにしている。また、体験入居が1週間出来るため、双方が納得して1週間後契約となる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>当ホームを家族が希望しても、面談を試みて、入所より在宅が適当であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共にし、日々の話の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者ご家族とスタッフは家族的雰囲気でも何でも話し合える関係作りが出来ている。又必要な方は携帯電話を利用して頂き御家族との連携を保っている。遠方の御家族には月報や電話で状況を密にしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>親しい方との面接や電話なども自由に行えるように支援している。囲碁のサークルに参加したりサークル仲間の方がほぼ毎日来て下さる方もいる。(コロナウイルスのが落ち着くまでは自粛しております。)信仰していた神社にお連れしたり通院支援や、買い物、手紙など馴染みの関係が途切れないよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人が孤立しないようリビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了された方の家族よりボランティアの申し出がある等、関わりは継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の暮らしの情報を基本に、家族からも情報をいただき、日々の暮らしの支援をする。また、生活を共にする中で、行きたい所、食べたいもの、したい事等知り得た情報をスタッフで共有し、実現にむけて取り組む		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活歴についても聞き、対応に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態に合わせ入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ有する力を全員が発揮できていない現状だが、残存機能を生かした支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングを基本に家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しい方もおられ、日々の対応で知り得た情報より、思いを酌んでの介護計画となっている方もおられる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには出来る限り協力体制を取っている。(囲碁教室に通うなど)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員・ボランティア、警察・消防には認知症対応ということで、緊急事態の為にリスト作りをして頂き協力体制を作っていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科・精神科・皮膚科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も適切な医療体制で臨んでいる。入居前のかかりつけ医は、入居してもそのまま継続していただいている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化にも状況により訪問相談等、24時間体制で連絡がとれる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院3ヶ月までは退居の必要はなく安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の希望で看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、家族もまめに面会に来られている。重症化した場合、終末期については主治医と施設・家族で話し合いを持ち三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故に備えて緊急マニュアルをスタッフルームに掲示、それに従い落ち着いて対応するように伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮する事をカンファレンスや施設内研修で、何度も繰り返しスタッフに働きかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど考慮し、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方は、こちらで意をくみつつ、生活の中で、今日着たい洋服や、したいレクリエーション活動など、自己決定していただく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についてもまず声かけにより入居者の意思を確認し個人のペース生活できるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思決定ができる方は化粧品等一緒に買い物などしているが、自己決定できない方は利用者の好みなど職員が把握するようにし支援している。又理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食手づくりで、野菜の皮むき、食器拭きなどは手分けして職員と共に行い定着している。又食事中も会話が弾むよう職員が中に入ったり仲の良い利用者同士を同じ席にするようにしている。誕生日の方に食べたいものをリクエストしてもらったり、気候の良い日は、庭でランチを食べる。利用者の好き嫌いに合わせたメニューの提供をする。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の嗜好、食事量を把握し、配膳に工夫している。歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助する。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保つ。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。理学療法士を招き、排泄の自立に必要な介護技術を習得することで一人一人の能力に応じた介助を行い、より良い支援を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者個々のタイミングに合わせ、入浴を支援している。浴槽に入りたい方、シャワーが良い方など希望に合わせる。浴槽に入るのが難しい方には、リフトが設置されており、又椅子に座ると全身にシャワーがかかる「ザ・シャワー」も設置されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	睡眠パターンについては、職員の方でほぼ把握出来ている。昼夜逆転の傾向の人やその他夜間の様子については申し送り等で職員間で情報を共有、カンファレンスで話し合い、日中のあり方を検討し配慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋に目を通し、把握しておく。服薬時は日にちと名前を職員2名で確認をし、誤薬の無いように徹底している。又ノートを作成し主治医に体調の変化の報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーション、散歩等、声を出したり笑ったり身体を動かしたりという活動を日課の中に取り入れるよう心がけている。又、洗濯物の手伝い、食後の片付け等個々の役割を決めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候の良い日は、向かいの公園へ数人に分かれて出かけている。「願いを叶える月間」を設け、全員に、どこのお店で何を食べたいか、どこに行きたいか、何をしたいか等、聞き取りをし、スタッフが付添い、外出支援を行う		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持に関しては、トラブルの元になるので、入所時からお断りしている。しかし買い物を楽しみを味わっていただく為に施設内でお店を開き、お金を使う事の支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話は自由に使って頂いている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングはいつも季節感を感じられるよう配慮している。又行事やイベントの写真を貼ったりビデオを見たりして思い出を会話に繋げている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室、同じ造りになっているが使い慣れた物を持ち込まれたり(ドレッサー・仏壇・囲碁セット)テレビを置いたり家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋となっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>能力に応じてバーを利用したり、シルバーカーや車椅子で移動されている。歩行や立ち上がりの不安定な方は居室にもバーや立ち上がりの為のポールも取り付けている。不安やパニックになる前に、声かけ、見守りを心がける。日常行う行動については判りやすい掲示、案内などに配慮する。</p>		

V アウトカム項目(ゆめ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん

作成日 令和5年11月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害発生時の地域との協力体制がまだ十分でない。	災害発生時に避難に関する地域との役割を明確にした協力体制を築く。	運営推進会議にて、地域の方への災害時の相互の協力を呼び掛ける。	1年
2	10	家族会へ参加される家族、されない家族が固定化されている。	全てのご家族が参加しやすく、意見しやすい家族会の環境を作る。	できるだけ多くの家族が参加して頂けるよう声掛けを継続する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。